

#### 4. まとめ

本調査で得られた結果は次のとおりである。

- 燃料の重質さの評価である PM-Index、SPMI、C10-13 芳香族分の内、PM および PN 排出量と有意な相関があるものは SPMI と C10-13 芳香族分で、重質になるほど排出量が高くなった。
- 燃料性状による排出量への影響は、PN よりも PM の方が大きい結果が得られた。
- 燃料性状による PN 排出への影響は冷機始動時と加速時に現れた。
- ただし、十分に暖機された状態では PN 排出に明らかな影響は現れなかった。

#### 5. 今後の課題

本調査により、燃料性状によって PM や PM 関連物質の排出量が大きく変化する事が明らかになった。しかし、どの燃料性状が影響するのかについては引き続き調査が必要である。また、国連では、実際の走行環境に合わせた温度条件での排出ガス規制が必要とされ、UN-ECE/WP29 において排出ガス規制の試験法に低温試験および高温試験を加える事が検討されている。更に、我が国では 2017 年 5 月に発表された第十三次報告において「我が国としても、国際基準の見直しに積極的に参画・貢献すべきである」と述べられている。従って、今後の規制に対応するためには、特に排出ガスが増加する低温時の排出状況や、低温環境において燃料性状が PM および PN の排出に与える影響についても把握することを検討する必要がある。